

会 議 録

会議名	第4回知立市史編さん委員会
-----	---------------

開催日時	平成25年8月22日 午前10時30分～午前11時30分	開催場所	中央公民館2階中会議室
出席者	林市長・清水副市長・川合教育長・池田市議会議長・山崎市議会企画文教委員長・竹内教育委員会代表・藤井文化財保護委員会代表・宇納文化協会代表・關区長会代表・杉浦小中学校校長会代表・新行編集委員会顧問・西宮編集委員会代表・清水企画部長・今井総務部長・加古教育部長		
事務局	鶴田文化課長・中野市史編さん係長・加藤主事・岡田学芸員		
<p>1. あいさつ</p> <p>地域の特性を活かした街づくりをしていくには、過去の記録や祖先の経験を踏まえ、未来に進んでいくことが大切であり、そうしたことを考えると市史編さんが大切な事業であると認識している。従って的確な市史の編さんが大切であることから、皆様方のご支援をお願いしたい。</p> <p>2. 委嘱・委員紹介</p> <p>新規に委嘱した委員が7人いるが、時間等の関係もあり配席表を以って紹介を省略させていただきます。</p> <p>3. 議題</p> <p>「新編知立市史編さん事業について」および「新編知立市史編さん概要」の一部改正について</p> <p>事務局：「新編知立市史編さん事業」について配布資料1・2号をもとに概要説明</p> <p>事業概要については、本編2巻・資料編6巻・別巻3編の構成となり、その内本陣御宿帳については、平成22年度に発刊済みであり、来年度に「原始～古代・中世編」と「文化財編」の2巻を刊行し、平成32年度に全巻刊行を予定している。</p> <p>「新編知立市史編さん概要」の一部改正について資料3号と追加資料により概要説明</p> <p>改正部分について以下の通り説明</p> <ul style="list-style-type: none">・3頁の下線部分を追加・4頁の体裁の下線部分を変更・7頁の下線部分の変更 <p>委員：市史編さん概要の4頁の体裁欄で本のサイズが資料編B5、本編A5又は菊版、別巻A4版とあるが、理由について教えてください。</p> <p>事務局：資料編や本編については、県史や近隣自治体史を参考とし、このサイズとした。なお、別</p>			

巻については、写真等を多く取り入れることなど図録的な形を考えていたことから大きいサイズのA4版とさせていただいた。

委員：概要の4頁の体裁について、一部オールカラーから部分2色へ変更との説明があったが、市史は長い期間使用されるものであり、また、オールカラーでないと効果が期待できないこともあり、お金の問題からでは後退した感がいがめない。

事務局：オールカラーから部分2色の件については、費用面の問題から変更となった経緯があるが、オールカラーの口絵を増やすことで、担当部会の了解をいただいています。

委員：概要4頁の体裁欄で原始と古代・中世が分冊で1巻（箱）ということであるが、使い易さからいうと、いっそのこと原始で1巻、古代・中世で1巻と独立した形ではどうか。

事務局：当初計画に基づいて各部会も動いており、独立した巻でとなると金額も増えることとなり、当初の計画通りでと考えている。

委員：原始は左横書の左開きとなり、古代・中世は縦書きの右開きとなり、1冊とすると非常に見づらいことから分冊とし、1箱に入れることで進んできたのが現状です。

委員：前述の原始、古代・中世の件については西宮委員と同様な趣旨で、岡崎市の例を披露していただいた。

民俗編でのオールカラーから部分2色への変更については、まつりDVD（付録）作製経費の問題から生じたことであり、事務局の予算面での努力である。豊田市史の民俗編モノクロ写真が半分程度となったが、結果的にはオールカラーで発刊した。

会長：オールカラーとすると費用面でどの程度増えることとなるのか。

事務局：オールカラーでは、モノクロ頁も含めすべての頁がオールカラーの該当となり、また、校正作業も色校正が別に必要となってくることから、どの程度費用が増加するのか読めない部分がある。

委員：市史編さん概要9頁の名簿で鷹巣委員の備考欄での役職が准教授となっているが、正しくは教授です。

事務局：訂正させていただきます。

会長：議題について原案通り承認することとしてよろしいか。

委員：承認

4. 報告

(1) 昨年度の活動状況について

事務局：配布資料4号に基づき、各部会毎の主な活動について説明。

委員：質問なし

(2) 今年度の活動計画について

事務局：配布資料4号に基づき、各部会毎の主な活動について説明。

委員：現在、考古の範囲が広がり太平洋戦争の時代までが対象となっています。

5. その他

委員：パティオ池鯉鮒で文楽人形や山車などが展示されているが、市史においても同様な形で市民に分かり易い、深まる方法を考えていただきたい。

委員：西町においては、今山車蔵がないことから、ここ2～3年ぐらいの中で山車蔵を造りたいと考えている。

委員：谷田の郷倉については市の調査により、改修工事を町内の協力を得ながら実施した。嘱託員1名増の理由は何か。

事務局：7部会等に対してフルに働ける事務局の人員が3名であり、対応に苦慮していることから正規1名の増をお願いしたが難しく、何とか嘱託員での対応となった。

委員：知立まつりなどにおいて、若い方の歴史離れ等が感じられることから、若い方の興味を抱くようなことを考えていただきたい。

委員：前回の会議のときに本のサイズがなぜB5かとお聞きした経緯あり。現在A4が一般的であり、内容を多く掲載できると思うが、もう既に1巻発刊されていることからやむを得ないと考えている。

委員：昨年民俗関係での地区聞き取りがあったが、委員の先生の話しの引き出し方が良く、参加者が非常に満足していた。

委員：年間の総額予算が決まっていることから、どっかを充実しようとすると、どっかを減らす必要があり。悩ましい状況にあるが、編さん事業は着々と進めています。市史については今後30年近く使用されるものであり、発見された資料は極力掲載していきたい。予算面での配慮をお願いしたい。

また、先の編集委員会で八橋関係については、古典文学や近世の研究者にとっては全国区であり、頁数として古代・中世編を圧迫していることや、時代を通じて関わっていることから、今回八橋編を別巻として取り上げればと提案された。現在、事務局での預かり事項となっている。

委員：八橋関係については西宮委員と同様です。

知立の歴史民俗資料館建設に際し私も関わってきたことから、山車の公開については考慮したが、建設時の食い違いから外で組立て搬入することが出来なくなった経緯あり。従って、中で組立てをし展示していたが、途中から行わなくなってしまった。

事務局の人員については、今後刊行に向け校正などで益々人がいることとなる。執筆者の委員は、自分の原稿をチェックのみとなることから、誤りの少ない本を造るためには、事務局一定期間集中できる人がいることとなる。